

## S G M L 研 修 フ ォ ー ラ ム の 開 催

情 報 知 識 学 会 会 長

藤 原 鎮 男

学会は社会の公器であり、その使命をもっている。本学会は情報学に関し、その専門研究者の研鑽の場であると共に一般社会におけるこの分野の振興をはかる使命をも持つのである。

従来 of 学会は単に専門家集団の交流の場の機能を果たせばよかったのであるが、近年はそれだけでなく社会との交流が重要になってきた。その原因は近年とくに学術の進展のテンポが早くなり、その先端の状況を迅速に社会に紹介することと、逆に社会のニーズを遅滞なく研究、開発の専門家に伝え、それへの対応を促すことが必要になってきたからである。

本学会はつとにこの状況を認識し、なすべき活動を進めてきた。例えば、情報学の課題として浮上した知的所有権問題については5年前から数次の特別講演会を開催して問題点を明かにし、とるべき対応策を提案してきた。さらに、文章情報の管理システムとしてのS G M Lが登場するや、これを専門的に考究する理事諸氏の指導で本学会会誌のS G M L化を進め、他学会を先導し、一般社会の先達となったのである。また安全管理、アーカイバル資料の保存管理システムの確立のために研究部会を設け、内外の研究者による国際フォーラムを開催して社会の啓蒙に努力してきたのである。

本研修フォーラムは、この趣旨による本学会活動の一環として企画されたものである。すなわち本学会の理事会は、昨年来、S G M L方式の普及が情報学に関わる現下のわが国の急務であると認識し、本研修フォーラムの開催を企画し、取り上げる項目、講師の選定を協議してきた。そしてさいわい、学界、官界、産業界の熱心な支持と協力が得られ、立派な講師陣によるプログラムが出来、また協賛の諸氏の参加が得られることになった次第である。これは会長として喜びの極みであり、御支援、御協力の各位に対し衷心より感謝申し上げる所である。

S G M Lは始まって以来相当の年月がたった。それ故、海外においてはすでに実社会で実働の状況にある。わが国においても相当の錬度で実用中の企業もあるが、他方、その必要を感じながら未だ取り付くすべをもたぬ企業もあるのが実状である。社会の公器としての学会は、この状況に対して全体の足並みがそろい、国のトータルの進展が得られるよう努力すべきであろう。これが本研修フォーラムを我々が企画した所以である。

元より学会にとってこのような研修フォーラムを実施することは容易な負担ではない。それを敢えてするのはこのフォーラムの社会への寄与の意義を信ずるからである。

広く見れば、情報学はこれまでに知識情報の組織化としてそのデータベース化やネットワーク化を進めてきた。そして世界は現在、その運用のための規約、規制の管理システムの整備に向かいつつある。文章情報のSGML、物資物質生産のISO 9000、CALISなどはこの表れであり、これらの電子管理システムの整備は情報学の現在、近将来の課題といえよう。これは一学術部門の問題にとどまらず、学、官、産が一体となって取り組むべき国の盛衰にまで関わる問題なのである。海外諸国はすでに熱心にこの問題に取り組んでいるが、遺憾ながらわが方の対応は極めて未熟と言わねばならない。この状況においてわが学会は主導の努力をなすべきであろうと考え、学会に電子管理システム研究部会を設け、本研修フォーラムを第一回とし、今後逐次企画を進めようとするものである。フォーラムの開会にあたり、学会の意図を申し上げ御支援の各位に感謝し、今後のいっそうの御協力を願う次第である。